

令和元年度 第4回せたがや生涯現役ネットワーク世話人会議事要旨

日 時：令和元年9月2日（月） 午後5時30分～午後8時

出席者：世話人 兜山、片岡、藤田、石川、臼井、秋山、山根、志水
市民活動・生涯現役推進課 生方、藤木 桑原

欠席者：鬼塚

場 所：ひだまり友遊会館 第1会議室

1 〈協議事項〉

(1) 臨時総会の議案書確認（調整中であった事項について）

事務局より令和元年度臨時総会議案書（案）、出欠票について、第3回世話人会で調整中であった事項・修正した事項について以下のとおり報告がなされた。

〈第3回世話人会で調整中であった事項〉

- ・「第3号議案 令和2年度補助金予算要望について」は本日の議論を踏まえて資料を作成するため、調整中のままとする。
- ・「第2号報告 せたがやシニア現役プロジェクト 3年間の総括について」は人材グループ、ITグループともに事務局へ報告書が提出されたが、人材グループは調整中のためITグループのみ掲載している。
- ・「第4号報告 令和元年度イベント「大人の学園祭」について」は実行委員一覧を追記した。

〈修正した事項〉

- ・議案書表紙の次第に「第3号報告 令和元年度せたがやシニア現役プロジェクト中間報告について」、「(5) 団体PRタイム」を追記した。

また、片岡氏より「次第「第5号報告 世話人会からの報告」は何を報告するのか記載して欲しい」との意見が述べられたため、「第5号報告 世話人会からの報告（総会の実施時期について）」に修正する。

〈出欠票〉

- ・兜山氏が作成した交流会に参加団体を増やすための呼びかけ文について確認した。

〈その他〉

- ・交流会で発生するゴミについては世話人で協力して持ち帰る等の処理をすることとした。

- (2) あとおし講座について（令和2年度 シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト提案書について）
鬼塚氏の作成した「令和2年度 シニアの社会参加のしくみづくりプロジェクト提案書」について検討し、修正事項と追記事項の確認が行われた。臨時総会資料の事前発送の都合により、今回は修正を事務局で行い、世話人で確認をする。（以下、下線部分は提案書本文。）

2 事業の内容及び実施方法

(1) 事業の目的

- ・たたき台を踏まえつつ、文章を簡略化する。
- ・平成28年度より取り組んできた「まち歩き」と「地域活動体験講座」は、ネットワーク加盟団体の会員増など成果をあげていることを記載する。

(2) 事業の内容

・たたき台を活かす。ただし、下記の部分については今後世話人会で検討すべき事項とし、今回の提案書には記載しない。

◆上記講座を開催実施しながら、次年度以降の活動を「実行委員会」にて研究する。

- 1) シニアの社会参加の支援者や支援リーダーの育成を目的とした「講師派遣」の検討
- 2) シニアの社会参加ニーズのアンケート調査
- 3) 社会福祉協議会や世田谷ボランティアセンターの事業との連携のしくみづくり
- 4) 活動団体のメンバー募集や活動PRに関するIT支援のしくみづくり

(3) 実施体制

たたき台を活かして記載する。

- ・(2) プロジェクト実行委員会の構成メンバーは、生涯現役ネットワークの参加団体を主体として、区内に生涯現役ネットワークの名前で公募する。という文中の「公募」については①生涯現役ネットワーク内だけではなく、外部（一般区民）に働きかけること、②区民に対する受講生募集とともに企画スタッフを募集することであると世話人会で合意された。

(4) 令和2年度事業完了予定日

令和3年3月31日のみを記載し、「(1) 本事業の準備を「令和元年度」から「準備委員会」を立ち上げて取り組む。」及び「(2) 令和2年度を初年度として、3か年の期間で本事業に取り組む。」については別欄に記載する。

3 事業の成果や効果

(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果

たたき台を活かすが、以下の項目は修正する。

・「3) 講座参加者募集などで、社会福祉協議会やボランティアセンターの協力を得て、シニアの社会参加に関するシニアの社会参加のしくみを効果的なものにできる。」については、特定の団体名を記載しないほうが良いのではないかという意見が多く述べられ、

「3 講座参加者募集などで、生涯現役ネットワーク加盟団体等の協力を得て、シニアの社会参加のしくみを効果的なものにできる。」と修正した。

(2) 事業の成果の活用方法、将来の展開

本項目は削除する。

【事業実施スケジュール】

・「事業実施スケジュール（案）」とされているが、今後も世話人会で検討を行い変更していくことを踏まえて、「事業実施スケジュール（イメージ）」と表現を変更する。

【事業収支予算書】

[収入]

・シニア現役プロジェクトの実績も踏まえて、講座の受講料はまち歩き、地域活動体験講座ともに500円とした。また受講料の検討にあたっては、片岡氏より「無料で講座を開催することは難しいのか」という質問がなされ、藤田氏及び山根氏より「有償のほうが受講者の講座参加へのモチベーションがあが

り、キャンセル等が少ない。」との回答が述べられた。

地域活動体験講座参加費 500 円×50 人=25,000 円

まちあるき講座参加費 500 円×30 人=15,000 円

[支出]

1 「シニアの地域活動体験・せたがや街歩き講座」の支出予算

- ・実施補助スタッフ謝金の金額を訂正する。(5,000 円×3 人×4 回=60,000 円)

- ・志水氏、藤田氏、山根氏より「優秀な人材を確保し、事業を継続的に行っていくためには妥当な金額の労働対価は認める案のほうが望ましいのではないか。」との意見が述べられた。検討した結果、交通費程度を妥当な金額として以下を追記することとした。

- ・実行委員会議費 500 円×7 回×10 名=35,000 円

- ・活動訪問受入団体謝礼 2,000 円×15 団体=30,000

2 共通経費

- ・企画運営管理費の内訳を記載する。